



No. 86

# The University of Tokyo Forests News

# 科学の森ニュース

June 10, 2019

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林


## Web サイト「東京大学演習林の鳥たち」を開設しました

基盤データ整備委員会

演習林基盤データ整備委員会の生物部門鳥類分野では、各地方演習林における鳥類の調査を2004年から行っています。調査の際には、鳥類の生態写真も精力的に撮影してきました。このたび、これまでに撮りためてきた画像をWeb



可愛らしいメジロの画像のトップページ

サイト「東京大学演習林の鳥たち」(<http://www.uf.a-tokyo.ac.jp/tori/>)で公開しました。東京大学演習林のホームページ左下にあるバナーをクリックすると、各地方演習林で撮影された鳥類117種507枚の画像を見ることができます。いずれの画像も選りすぐりの自信作です。また、掲載した鳥について、演習林ごとの情報が示されています。ほかにも、演習林職員が執筆したエッセイも掲載されています。演習林に息づく野鳥の姿をぜひお楽しみください。

## 地域住民を対象とした 研究報告会（2018年度）の実施

富士癒しの森研究所

2019年3月6日（水）、毎年恒例となっている、地域住民を対象とした研究報告会が開催されました。今年度は、山中湖村と協同で進めている「森活で健康」プロジェクトのアンケート調査の結果報告がメインでした。調査により、村民の周辺には十分に森があり、多くの村民が「四季の変化がある」という点で満足しており、「散歩する」という形で森に親しんでいる村民が実に多いことがわかりました。今後、この調査で浮かび上がった森へのニーズを踏まえた森林整備方針の検討に研究の焦点を移していく予定です。このほか、癒しの森の植生調査隊の調査結果、山中湖のワカサギの歴史、森林散策カウンセリングについて報告しました。



研究報告に熱心に聞き入る村民

## 野鳥観察会で今年もたくさんの 笑顔が見られました！

千葉演習林

鴨川市と千葉演習林との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！」の野鳥観察会を、鴨川市内の小学生と保護者を対象に、清澄作業所構内にて2019年4月13日（土）に開催しました。昨年11月に千葉演習林産のスギ板を材料に参加者が作製し構内に設置した巣箱を、一つずつ確認していきました。今年は営巣数が多く、参加者の皆さんは巣箱の中にヤマガラやシジュウカラの卵やヒナを確認すると驚きと喜びの表情を浮かべていました。天候にも恵まれ、皆さんの笑顔が絶えないイベントとなりました。



巣箱の様子を観察中（画像提供：鴨川市生涯学習課）

## 「気持ちよく納められる森林環境税 とは？」を出版しました

田無演習林・演習林出版局

森林環境税をご存じでしょうか。全国37府県1市で導入されている制度です。2024年度から国でもほぼ同じ制度が始まり、個人住民税納税者から年額1,000円を上乗せして徴税し、森林整備等のために必要な費用を賄います。課税に先行して2019年度から森林環境譲与税（国が徴収した税を地方自治体に譲与）が始まっています。ユニークなのは森林の少ない都市部の自治体にも譲与されること、地方自治体が用途を決めることです。この本には増税の是非や適切な用途について、多種多様な立場からの意見が収められています。農学部と駒場の生協あるいは田無演習林でお買い求めいただけます。

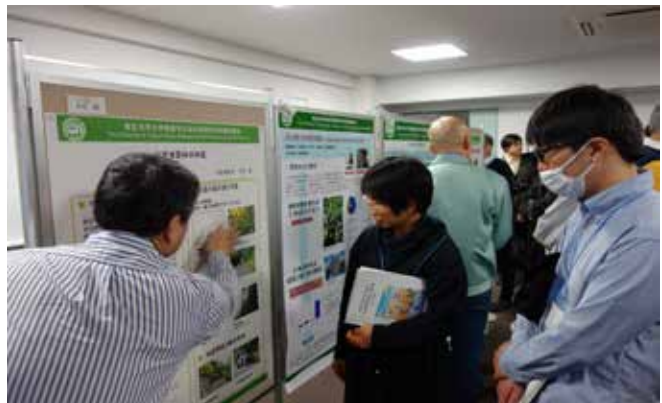


皆さんがお住まいの市区町村にも譲与されています

みなさんは、東京大学に何人の「技術職員」がいるか、ご存知でしょうか？東京大学の常勤の教職員は約 8,000 名ですが、そのうち技術職員は約 540 名です。農学生命科学研究科全体では約 90 名で、演習林では約 60 名です。技術職員の活動を私たちが直接目にする機会はそれほど多くなく、技術職員同士でも、ほかの部局や研究室の技術職員が何をやっているかを知る機会は決して多くはありませんでした。

そうした中、2012 年に全学にわたる技術職員の連携組織が立ち上がり、部局・研究室間の技術交流、研修会を定期的に行うようになりました。最近では、東京大学の全技術職員が一同に会する「東京大学技術発表会」が隔年で開催され、農学生命科学研究科では、「農学生命科学研究科技術職員研修会（以下、研修会）」を重複しない年に開催しています。最近の研修会では、前半に基調講演と口頭発表が行われ、後半にポスター発表が行われています。

第8回の研修会は、2019年3月7日（木）～8日（金）に行われました。今回の基調講演は附属動物医療センターの紹介で、その歴史的経緯、学生の研究紹介、施設見学がありました。今回、ポスター発表では、初の試みとして発表内容を1分間で説明する「発表者スピーチ」がポスター発表の前に行われました。参加した演習林技術職員からは「ほかの施設の裏側やスタッフの生の声を見聞きし、他分野の技術職員からの情報を得ることで、演習林の現状をより理解することができた」との声を聞くことができました。



技術職員によるポスター発表の様子

### 演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各地方演習林にお問い合わせください。

#### 【6月】

- 1-2日 総合科目「森林環境資源学」(森の最終形) ☆ (千葉)
- 1-2日 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」☆ (秩父)
- 2日 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター」☆ (田無)
- 2日 子ども樹木博士認定会 (田無)
- 2日 休日公開 (田無)
- 2日 とよた森林学校「森林セミナー」(生水研)
- 8-9日 総合科目「森林環境資源学」(森とダム) ☆ (生水研)
- 15-16日 総合科目「森林環境資源学」(森と癒し) ☆ (富士)
- 16日 シデコブシの会「キノコ調査会」◆ (生水研)
- 18-21日 森林環境物理学実習☆ (生水研)
- 22-23日 全学体験ゼミナール「君はスギ・ヒノキのことを本当に知っているのか? (入門編)」☆ (千葉)
- 23日 公開セミナー (北海道)
- 29-30日 全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林」☆ (生水研)

#### 【7月】

- 9日 大麓山ハイキング登山会 (北海道)
- 21日 シデコブシの会「巣箱内巣材調査」◆ (生水研)
- 25-26日 公開講座「東大の森で昆虫採集」(秩父)
- 29-31日 高校生のための森と海のゼミナール  
～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～◆ (千葉)

#### 【8月】

- 2-5日 全学体験ゼミナール「森に学ぶ(ふらの)」☆ (北海道)
- 11日 矢田・庄内川をきれいにする会「水生生物観察会」(生水研)
- 18日 シデコブシの会「夏休み水生生物観察会」(生水研)
- 20-23日 造園学会中部支部サマースタジオ◆ (生水研)
- 未定 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)1」☆ (樹芸)
- 未定 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)2」☆ (樹芸)

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他

バニラ  
ラン科 バニラ属  
学名: *Vanilla planifolia*

中央アメリカ原産のつる性植物で、熱帯地域で多く栽培されています。インゲン豆のような蒴果は「キュアリング」と呼ばれる熟成工程を経て甘い香りを生じ、いわゆるバニラビーンズとなります。花は3月～6月の早朝に咲き数時間で萎みます。自然受粉はまれなため、毎朝人工受粉を行います。樹芸研究所では2011年の初開花から専用の道具を作るなど、試行錯誤しながら技術を磨いてきました。そのかいあって、2018年には受粉成功率が50%まで高まり、700本の蒴果を収穫しました。収穫した蒴果は熟成処理を行い、出来上がったバニラビーンズは、体験ゼミや実習の教材として活用されています。



名所 名物案内

マカバのテーブルとイス

教育研究センター

教育研究センターには、教職員や学生たちが集う木製のテーブルとイスがあります。北海道演習林産のマカバ(ウダイカンバ)で作られたもので、当時の永田 信・元演習林長と荒木田善隆・統括技術長から2008年3月に寄贈されました。マカバはカバノキ科の広葉樹で、ほかの樹種にはない材の色やツヤがあるために、極めて高価で取引される高級木材です。一般的には、1mm程度に薄くスライスしたツキ板として家具や内装に利用しますが、このテーブルとイスでは贅沢におよそ50mm厚の板が使われています。これらは、演習林と縁があった静岡県のきんぱら株式会社に完全オリジナルで作製していただいたものです。加工はウレタン仕上げで、オレンジイエローと黒で若干着色がされています。当時を知る教職員からは「黄色味やオレンジ度が増している気がする」との声が聞かれました。使えば使うほどに味わい深くなるテーブル。今後も大事に使っていきたいです。



2008年当時(上)と現在(下)のテーブルとイス

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第86号 (No. 86)

発行日 令和元年6月10日

発行人 福田 健二

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2017@uf.a.u-tokyo.ac.jp